

全国中国語教育協議会

ニュースレター

第21号 2001年9月13日発行

協議会5年の足どりから新たな展開を考える(第1面)

国外にも中国語教学研究に新たな息吹き(第2面)

全国中国語教育協議会は96年秋の設立準備会開催、97年秋の正式発足を経て、今秋で満5年の足跡を刻むことになる。全国の大学・高等学校・専門学校・民間各種教育機関において中国語教育に従事する者が集い、相互の交流を深め、外国語科目としての中国語教育を確立し、教授法や教材等の研究・開発につとめ、その充実をはかるべく、活動を続けて来た。教育者の資質向上を当初の活動の中心に据え、セミナーの開催には力を注いだが、事務局の非力もあって、折角の活動の成果が、会員にはもちろん、中国語教育界に対する還元をはかる点で所期の目標に到達してはいない。

準備会の段階で、直ちに学会設立を求める声も小さくなかったが、機の熟すまで待つとしたため、組織・運営の面で、会から会員へのサービスはもちろん、会および会員の活動をげにする点でも、期待に応えられなかった。来春3月に隔年開催の大会を開くので、早急に理事会のご高見を伺い、次年度以降の「改革」をはかりたい。なお、今号から会の発展を考えるための各種資料を順次添付する。今回はセミナー等の記録、次回は会員名簿をお届けする。年末にはセミナー報告刊行も予定している。

今からでも申し込める 月例セミナーのご案内

前号ご案内の10月セミナーに参加希望の方は至急お申し込みください。⇒11月以降はp.4に掲載。

(10月)10月13日(土)「中国語教育縦横談」〔仮題〕

講師 大妻女子大学教授 高橋 均 氏

【事務局からの一言】古代漢語から現代漢語まで幅広い研究領域と、講習会から大学まで豊富な教育経験、そして中国語友の会運営と月刊「中国語」誌編集(本年9月に500号記念)を多年にわたりご担当と、そのご経歴からも中国語教育に関して様々な視角からお話しただけだと思います。

研修時間は午後1時半～4時半。会場は(財)国際文化フォーラム会議室(新宿駅西口、新宿第一生命ビル26F)。申し込み方法 葉書に氏名・連絡先(住所)・所属・中国語教育歴を記し、事務局へお送りください。折り返しお返事いたします。受講料は¥2,500です(受講料事前納入をお願いします)。

会費納入のお願い

本会の経費は年度会費2000円と有志の寄付金によっています。今年度会費をすでに納入済みの会員には、ご協力に感謝しております。納入が遅れている方は、会報前前号とともに送付いたしました振り込み用紙で、至急お振り込みをお願い申し上げます。

事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中文研究室内

全国中国語教育協議会

郵便振替口座 00120-0-364168

なお、お問い合わせ・ご連絡等は
お手数でも郵便でお願いいたします。

首届国际对外汉语教学语法讨论会

国家对外汉语教学领导小组办公室（汉办）



このレポートでは中国語の教育や研究に関する学会・研究会をはじめ、施設・機関などを順次取り上げている。今回は8月に北京で開催された、外国人に対する中国語文法教育のシンポジウムをご紹介する。テーマと参加者が限定されたことで、この種の討論会としては実りが多く、文法教育の理論的基盤、具体的な文法体系、母語との対比に基づく教授法等については、参加者の報告に新たな息吹きを感じるものが少なくなかった。〔輿水優 記〕

対外汉语教学といえば、3年ごとに開かれる世界漢語教学学会の国際シンポジウムが最も大規模で、日本からの参加者も少なくない。前回1999年はドイツのハノーバーで開催された。次回2002年は上海復旦大学が会場となる（会報20号に掲載）。この会は参加者が400人にも及ぶため、内外の専門家と接する機会は作れるが、発表論文は玉石混交、全体に親睦会的イメージを否めない。その理由に国外からは論文のレベルを問わず、国内では参加資格についてハードルを設けているが不徹底、といった問題がある。ヨーロッパからの参加者は早くから学術的な会にしたいと主張していた。

漢办では外国人留学生5万人（日本1.3万、韓国1.6万）という状況を迎え、外国人に対する中国語教育に関する長期計画策定の中で、今後3年間は文法の問題を取り上げることになったという話で、今夏20~30人規模の国際对外汉语教学语法讨论会を開催するという招聘状が4月に届いた。論文提出のほかに、14項目の討論テーマについて準備をするように求められている。

会期は8月10日から12日まで、会場は北京第二外国語学院、同校の留学生楼に1室2名の合宿形式で行われた。参加者は計24名、ヨーロッパからの招聘者が全て欠席だったことは残念だが、内外とも気心の知れた方々ばかりであった。日本は3名（うち杉村氏は北京大学で在外研究中、現地参加）、p.3のリストでわかるように、中国血統の参加者が圧倒的多数である。交互に司会者と報告者をつとめ、各30分の持ち時間で、発表後の討論も言語の障壁なく活発に進められた。3年に1度のシンポジウムに感じられない

充実感があった。テーマと参加者を特定したことが従来にない成果をあげたと思う。

筆者（輿水）は本年7月の月例セミナーにおける報告を基盤に、入門段階から初級段階に至るまでの、文法項目の選択と配列を割り付け表の形式で提示した。特に日本人学習者の学習過程に留意し、用語の吟味も行った。一つの文法項目でも難易度によって内容の取捨が必要であり、基礎段階では文法として取り上げず、語彙の問題として扱うべきことも多い、といった主張である。

今回の参加者は期せずして、筆者と同様に文法項目の選択とその配列をテーマとするものが多かった。劉月華、趙淑華等がその例である。筆者はこれまでのセミナー等における報告を集約し、年内に本会の研究ファイルとして公刊する予定である。

文法項目の難易度の判定基準を考察する報告は今回の収穫の一つであった。鄧守信がWestney著《Perspective on Pedagogical Grammar》(1995)を借りて中国語に即した原則を示し、参加者の興味と関心を集めた。原則5で、文語体は口語体に比し難度が高いとするが、漢文を学ぶ日本人にはどうか。

文法を文法として教えるのではなく、語句の運用法に習熟するとともに文法を身につけさせる、という当然の主張も複数の報告に共通するところであった。李泉は外国に派遣される中国語教員の模擬授業で文法の教え過ぎに驚いたとしている。文法過重を避け、語彙として教えるという主張からは、次に語彙をめぐるシンポジウムの必要性が感じられた。教室文法の位置付けも今回の主要テーマの一つであった。

なお明年7月に上海で第2回開催を決めた。

§§ 语法讨论会 報告者と発表論文名リスト§§ (p.2参照)

⇒下記論文の配布資料(レジュメ)は、コピーご入用の方におひとりにつき3点まで郵送いたします。80円切手2枚を同封してご希望の番号を事務局にお知らせください。番号のないものは口頭発表のみで資料はありません。資料の頁数は最少1枚、最多9枚です。

- 1 與水优 (日本・日本大学) 对外汉语语法教学的语法点及其出现的顺序
- 2 刘月华 (美国・哈佛大学) 关于对外汉语教学语法
- 3 赵淑华 (北京语言文化大学) 基础汉语教材中语法点的选择、安排和注释
- 4 张旺熹 (北京语言文化大学) 关注以句子为核心的三重关系研究——谈对外汉语教学语法系统的建设
- 5 李泉 (中国人民大学) 语法在对外汉语教学中的地位和作用及相关问题
- 6 李英哲 (美国・夏威夷大学) 汉语语序和数量在空间同对象中的分配
- 7 崔希亮 (北京语言文化大学) 试论教学语法的基础兼及与理论语法的关系
- 8 金立鑫 (上海外国语大学) 漫谈理论语法、教学语法和语言教学中语法规则的表述方法
- 9 朴正九 (韩国・国立全北大学) 汉语语法理论与汉语教学
- 10 王培光 (香港城市大学) 语法教学的语法明显度
何宝璋 (美国・哈佛大学) 对外汉语教学语法的方法问题
- 11 卢福波 (南开大学) 谈谈对外汉语教学语法的方法问题
吕文华 (北京语言文化大学) 对外汉语教学语法体系中的若干问题
- 12 李晓琪 (北京大学) 关于建立词汇—语法教学模式的思考
- 13 邓守信 (台湾师范大学) 对外汉语语法点困难度评定
- 14 郭春贵 (日本・广岛修道大学) 对日本学生汉语语法教学的难点
- 15 崔健 (延边大学) 汉语语法的特点与对外汉语语法教学
孟琮 (美国・外交学院) 语法难点出现的原因
- 16 胡明扬 (中国人民大学) 句法分析问题的再思考
- 17 赵金铭 (北京语言文化大学) 目的语与中介语句子之间语法“最小差异对”的识别与应用
- 18 杉村博文 (日本・大阪外国语大学) 从日语的角度论汉语被动句的特点
- 19 周小兵 (中山大学) 副词的系统研究与第二语言教学
- 20 屈承熹 (美国・佛罗里达大学) 功能篇章语法及其在对外汉语教学上的应用
范开泰 (上海师范大学) 什么是对外汉语教学语法?

✍ 全国中国語教育協議会 会報・研究ファイル 原稿募集 ✍

- ☆ 会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデア ②教学実践記録(教案等も含む)
③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④私の読んだ本
(外国語教育の分野で、紹介・書評とも) ⑤その他、会報にふさわしい内容の原稿。
1編1千字以内。ワープロ使用を原則とし、手書きの場合は400字詰め原稿用紙使用。
締切りは特に設けない。採否は事務局一任とし、随時掲載。原稿は返却しません。
- ☆ 《研究ファイル》原稿 会報(ニューズレター)とは別に、とじこみ式の「研究ファイル」を不定期に刊行します。中国語教育に関する主張や論説をお寄せください。字数は400字詰め用紙換算20~40枚程度。形式は既刊のファイルをご参照ください。理事数名の審査で採否を決めます。原稿はワープロに限り、紙に印字したものにフロッピーを必ず添付。ファイルの形式はWindowsで作成されたものとし(Mackintoshは不可)、できればMicrosoft Word文書ファイルが望ましい。中国語はGB、またはBIG5で入力されたもののほか、「Chinese Writer」「Nihao Win」「cWnn」「中文起稿」等も受け付けます。

2001年度セミナー(後期・後半)のご案内

2001年度の月例セミナー(後期・後半)の参加申し込みについてご案内いたします。月例セミナーは開催月の第2土曜を原則としています。これまで、各年度とも前期と後期に分け、それぞれ一括してご案内とお申し込みの受付をしていましたが、今年度から参加者のご予定に合わせやすくするため、2回分ずつのご案内をしています。

今回の後期・後半へのお申し込みは直ちに開始し、各回定員30名で締め切ります。後期・前半のセミナー日程は前号でお知らせしましたが、次回10月13日に今から参加ご希望の方は今号p.1のご案内により至急お申し込みください。

なお昨年度実施の、参加者から意見票(兼質問票)を事前にお送りいただく方式は、都合により今年度は中止し、会場で質問や意見交換の時間を十分とるようにします。

2001年度11月～12月セミナー要項

☆各回の日程および研修テーマと講師

(11月) 11月10日(土) 「アメリカにおける中国語教育から」〔仮題〕

講師 広島修道大学教授 郭春貴氏

【事務局からの一言】昨年、アメリカで1年間の在外研究に従事された郭先生から、特に中国語教育について得られた多くの知見をお話いただきます。例えば、文法のルールを講述するのではなく、エクササイズやドリルなど、練習の積み重ねで体得させる、といった具体的な見聞とともに、日本人に対する中国語教育の問題点などもご指摘いただく予定です。

(12月) 12月8日(土) 「対外汉语教学与IT」

講師 日本大学芸術学部教授 陳文正氏

【事務局からの一言】コンピュータを活用した中国語教育について、国外の状況に通じ、早くからご自身も教授法の研究と教材の開発を手掛けて来られた陳先生に、この領域におけるこれまでの展開と最近の動向に関するお話とともに、コンピュータをはじめとする語学教育機器を利用した教授法や教材を実際に紹介していただく予定です。

☆時間割りと会場

各回とも研修時間は、午後1時半～4時半(1時10分受付開始)。

会場は従前通り(財)国際文化フォーラム会議室(新宿駅西口、新宿第一生命ビル26F)

☆申し込み方法 葉書に参加希望の月と、氏名・連絡先(住所)・所属・中国語教育歴をお書きの上、事務局へお送りください。お申し込みの方にはご案内と受講料の振込用紙を郵送します。受講料は1回=¥2,500、2回一括申し込みは¥4,500です。すでに9月あるいは10月のセミナーに参加の方は、今回のお申し込みは各回とも¥2,000です。